

シンポジウム特集

# 幕臣たちの文明開化

2018年6月、郵政博物館では明治改元150年企画展「幕臣たちの文明開化」（2018年4月20日～7月1日）と連動し、同名のシンポジウムを開催した（裏面参照）。本誌では、当シンポジウムの登壇者4名に依頼して基調講演およびパネル報告に基づく論考を寄せていただき、今号の特集とした。当館研究活動へのご協力に対し、ご執筆者各位に感謝申し上げます。

---

## 郵政博物館シンポジウム「幕臣たちの文明開化」

### 開催概要

日時：6月16日（土） 13：30～16：00

場所：東京ソラマチ11階J K会議室

主催：郵政博物館

後援：総務省



### 登壇者

基調講演 石井 寛治（東京大学名誉教授  
／第1分科会主査）

パネル報告 杉山 伸也（慶應義塾大学名誉教授／第4分科会主査）

井上 潤 （渋沢史料館館長）

田原 啓祐（郵政博物館主任資料研究員／第1分科会）

### 内 容

本シンポジウムでは、開国、大政奉還、王政復古、文明開化と激動の時代を駆け抜けた幕臣たちが残した功績を紹介し、彼らが見据えた新時代の構想について再評価した。まず井上卓朗館長より開会の挨拶およびパネル報告者の紹介があり、続いて石井寛治氏よりシンポジウム全体の方向性を示した基調講演があった。続いて杉山伸也氏より福澤諭吉について、田原より明治前期郵便事業に携わった旧幕臣の前島密、杉浦譲、榎本武揚について、井上潤氏より渋沢栄一について報告があった。その後パネルディスカッションに入り、旧幕臣が文明開化期において果たした役割や功績について（特に福澤諭吉をめぐる評価をめぐる）議論が行われた。参加者は当初定員の50名を上回る76名となり、盛況を博した。

---